



学校だより



横浜市立港南台第一小学校
令和5年度 2月号
令和6年 1月31日発行

Email y3konan1@edu.city.yokohama.jp Tel 832-0210 Fax 832-7771
U R L <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/konandai/>



「厳しさ」の意味を考える

副校長 竹端 岳

「同じ年の有名人は誰ですか。」と言われれば、どなたでも誰かしらは思い浮かぶのではないのでしょうか。わたしが真っ先に挙げるのは、長らくメジャーリーグで輝かしい成績を残したイチローです。

イチローの現役引退から早5年が経とうとしていますが、彼はメジャーリーグや日本プロ野球のコーチ、監督の道に進むことはなく、学生野球の指導資格を取得し、全国の高等学校の野球部へ電撃訪問したり、女子野球のチームと対戦したりして、学生との交流を深めています。決して野球の強豪校だけでなく、近年は甲子園とは無縁の公立校にも足を運んでいるところを見ると、勝つための技能や練習法だけでなく、野球というスポーツを通して何を学ぶか、どのような高校生活を送るかをコーチングしているようにも思えます。

昨年、彼が訪れた旭川東高校で、次のように言ったことが新聞に載っていました。

「今の時代、指導する側が厳しくできなくなって。何年くらいなるかな。(中略)これは酷なことなのよ。高校生たちに自分たちに厳しくして自分たちでうまくなれって、酷なことなんだけど、でも今そうなっちゃっているからね。(中略)どうしてる?迷ったとき。誰に相談するの。自分の中で整理して進むしかないの? どうであってほしいと思う? 厳しくしてほしいって子もいるでしょ、中には。」(スポニチアネックス 2023年11月6日付より引用)

彼が決して体罰やハラスメントのことを指して「厳しく」と言っているわけではないのは、後半部分を読めばわかります。高校生に対して発したこの言葉ですが、指導する側であるわたしにとっても考えさせられる言葉でした。指導が子どもの反発を生むことを恐れ、安易に「それは自分で考えよう。」「それは自分が決めること。」と言っていないですか? そんなことを同じ年のイチローに問われた思いがしました。

子どもに決めさせている、子どもに任せているというのは聞こえがいいですが、本当にそれだけで子どもが力を最大限発揮できるのでしょうか。もしそれで子どもがうまくいかなかったとき、「自分で決めたことだから」と大人が言い放って終わりでは、イチローが言うようにあまりにも酷です。

小学校において学びの主体が子どもであることは間違いありませんが、子どもが主体的に学ぶためにも、教師の指導は必要です。子どもの目指したいことを理解した上で、十分な知識を教授し、目標達成までの展開やリスクを伝え、子どもが問題に直面したときに適切なアドバイスや軌道修正の道筋を示すことができる…それが指導者の役割だと思っています。時には子どもにとっては耳の痛い、課題点を指摘しなくてはならない場面があるかもしれません。それでも子どもの未来を考えたときに、嫌われてでも言わなくてははいけない。イチローの言う「厳しく」とは、そのようなことを指しているのではないかと考えます。

ただ、厳しさ一辺倒では、子どもは委縮し、育たないこともまた然りです。子どもの性格とそのときの状況に応じた「さじ加減」、また、たとえ失敗したとしても、そこまでの努力を認め、あたたかく包み込む「優しさ」も、同時に備えておきたいと思えます。